

## 六十回フオト旬会優秀作品(28年3月16日)



さて今宵どのツラさげて

帰るやら 三 春

寸 評：奥方が亭主の遅い帰りを待っている言葉。笑顔で帰るか、ヒョットコ面で帰るか、待つ身としてはどっちでもいいわ！



春雪の大地に描く

抽象画 松田 昌康

寸 評：黒々とした春の土に薄く雪が積もった畑。着眼点もモノクロめいた画像も良い。



眼福や観音様の

**腋の下** 松田 昌康

寸 評：林檎を差し上げて  
いる観音様も珍しいが、そ  
の腋の下を見て幸福感に浸  
る人も珍しい。



着飾って鹿鳴館の

舞踏会 中村 晃也

寸 評：生け花展での  
スナップ。植物だけでも  
素敵な造形ができる。

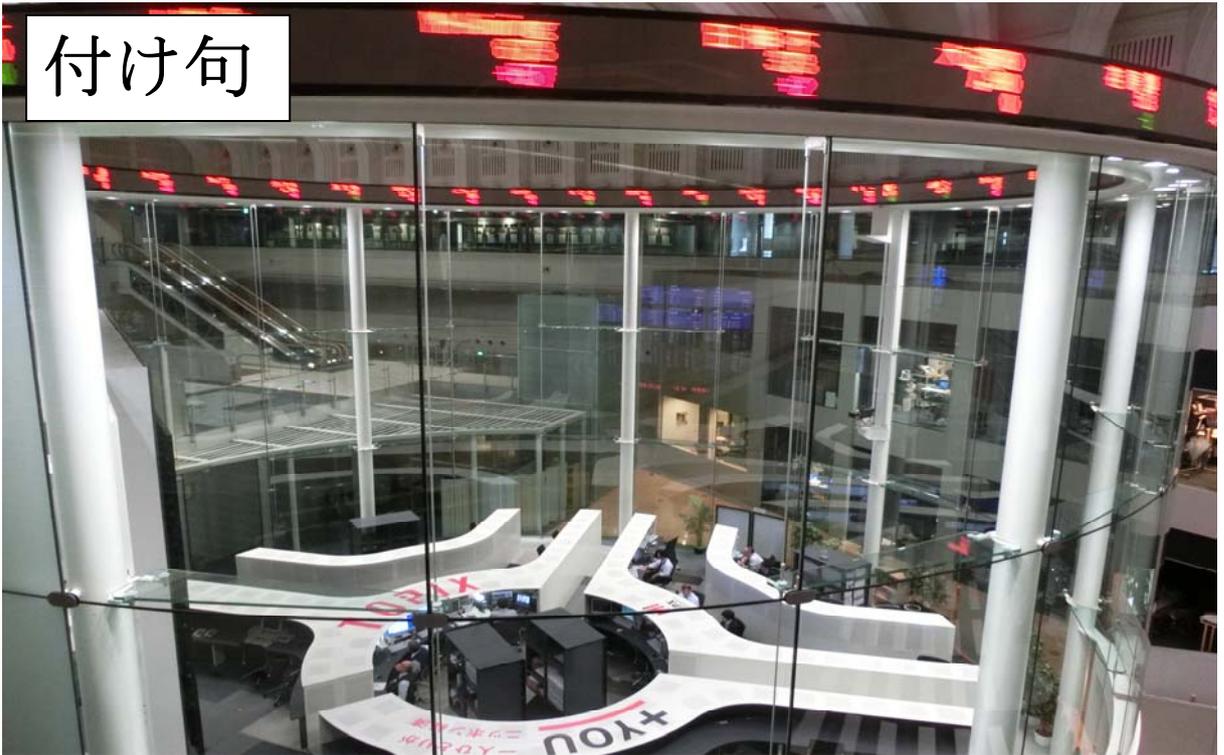


婆さんや今日はお蔭で暖かい 清水 勝  
寸 評：人間味のある微笑ましい作品だ。  
作者のお人柄が偲ばれる。



紙面が余ったので…。  
**OBペン輝くフォト句会メンバー**  
27年12月（矢澤さん欠）

## 付け句



今月は池田さんの出題で、兜町の証券取引所の写真です。ガラス張りの所内には人影もまばらで、全ての取引は超大型のコンピュータで処理されている由。

- |                              |       |
|------------------------------|-------|
| 1) 姿なきおカネの泳ぐ <b>金魚鉢</b>      | 池田 隆  |
| 2) <b>伏魔殿</b> 中身が見えぬガラス張り    | 池田 隆  |
| 3) 山坂を越え谷渡り無一文               | 中村 晃也 |
| 4) 欲望の株価回りにて <b>蜃気楼</b>      | 大越 浩平 |
| 5) 食わせ物 <b>カブもケーキも</b> 食い荒らす | 三 春   |

寸 評：

- 1) 莫大なマネーが一瞬に動くが現物の動きは見えない不思議。
- 2) 透明なガラス張りでも取引の中身は見えないまさに伏魔殿だ。  
前二作は出題者の作品。金魚鉢、伏魔殿など比喻が巧みである。
- 3) 株価は激しく上下するが、結局は全てを失う。まさに放浪の旅人。
- 4) 欲に駆られた株価は一巡するが、所詮蜃気楼の如く消えてしまう。
- 5) 我が国の**株も景気も**外国の大手ファンドが欲しいままに操っている。  
証券取引所の写真から、食品になぞらえて**食わせ物、食い荒らす**などの措辞を引き出すセンスは抜群だ。